

—ビデオカメラによる路上観察—

兵庫県生活科学研 ○柴田祥江 桜井啓吉

目的 高齢婦人の履物実態分析—写真撮影による路上観察—の調査に引き続いて、本調査ではビデオカメラを用いて路上観察を実施、高齢婦人が外出時にどのような履物を着用しているのか実態調査を行うとともに、高齢婦人の歩行の状態についても分析した。

方法 路上における高齢婦人の歩行時の状態を前報と同じ寺院2ヶ所、及び市場2ヶ所で、1～2月、7～8月の2回、ビデオカメラで撮影し、日時毎に50人ずつ鮮明な画像を選び、ア.履物の種類 イ.かかとの高さ ウ.履物の色 エ.かざり オ.履物のフィット性 カ.着用の状態 キ.服装 ケ.足首の傾き コ.脚の状態 (○脚、×脚) サ.歩行補助具 の11項目について解析を行った。併せて歩行動作についても分析した。

結果 ア.～エ.の結果は既報と同傾向であったが、今回の調査では、ちょうど良いと思われる履物は靴の着用者で57%、つっかけ着用者で11%であった。靴の着用者では足より大きい履物をはいている人が多く、つっかけ着用者では小さいものを着用している人が極めて多かった。(76%)足首が内反している人が44.3%、ぞうりの着用者では80%もあった。これは加齢とともに多くなることによる。脚の状態では、50%が○脚であった。

歩行動作については、速度が遅く、歩幅が短い、両脚支持期が長く、すり足歩行に近い高齢者特有の傾向が見られた。

観察結果からみると、高齢婦人の足もとは予期した以上に危険性が高く、高齢者の転倒事故の実態、安全な履物の条件を明らかにすることが今後の課題である。

1) 柴田, 桜井; 第10回日本家政学会関西支部研究発表会要旨集